

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。（建築基準法施行令第93条）

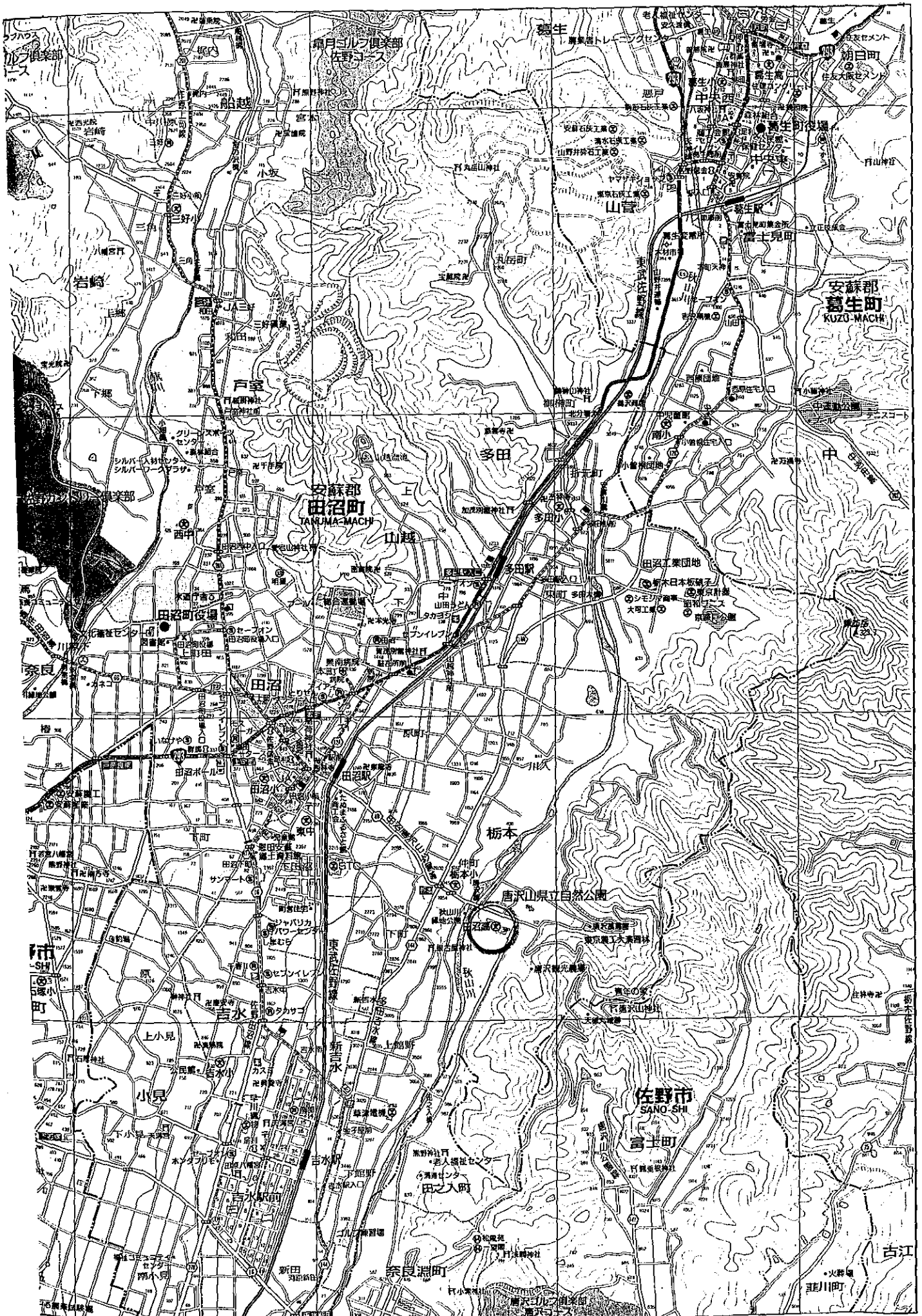
地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

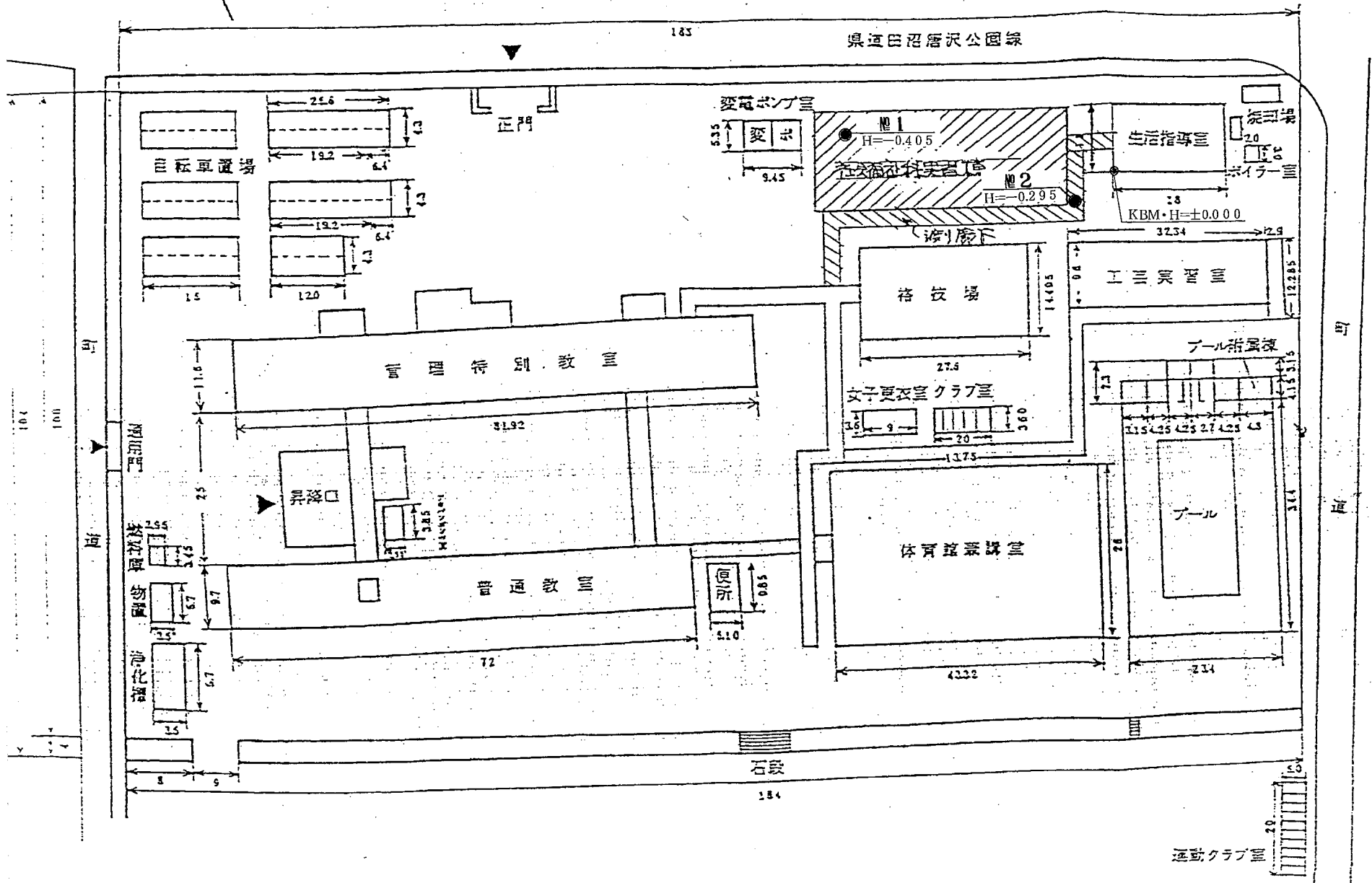
栃木県県土整備部建築課

桑内凶

○.....調査地



栃木県立田沼高等学校



土質性状図

報告用紙

栃木県立田沼高等学校社会福祉科
 調査名・調査地点 実習棟新築工事地質調査 標高 - 0.405 m 調査年月日 9年1月20日～ 年1月29日
 ボーリング孔: 1 孔内水位 G.L. - 4.60 m 調査担当者

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録				標準貫入試験				試料採取				
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m	打撃回数 貫入量 cm	10 cm 打撃回数	20 cm 打撃回数	30 cm 打撃回数	N 値	試料番号	採取方法	
1	1.20	0.80	0.80	埋	土	暗茶	灰 上層8cmアスファルト 石、セメント混入主体 φ2~8%の小粒径 管理性不順。	1.15	3	1	2					
2	2.25	1.25	1.15		シルト質粘土	暗茶	灰	1.46	31	18	13					
3								2.15	50	6	44					
4								2.26	11	6	7					
5	5.00	4.60	2.65		砂	暗茶	灰	3.15	17	7	4	6				
6								3.25	30	7	4	6				
7								4.15	43	13	13	17				
8								4.25	30	13	13	17				
9								5.15	50	50						
10								5.24	9	9						
11								6.15	50	17	33					
12								6.34	19	17	9					
13								7.15	50	17	20	13				
14								7.31	26	17	20	6				
15								8.15	50	16	18	16				
16								8.41	26	16	18	6				
17								9.15	50	15	9					
18								9.30	15	41	5					
19								10.15	41	9	13	19				
20								10.45	30	9	13	19				
21								11.15	50	13	22	15				
22								11.41	26	13	22	6				
23								12.15	50	9	34	7				
24								12.36	21	9	34	7				
25								13.15	44	12	18	14				
26								13.45	30	12	18	14				
27								14.15	25	4	11	10				
28								14.45	30	4	11	10				
29								15.15	11							
30								15.45	30	3	4	4				
31								16.15	9	3	3	3				
32								16.47	32	3	12	3				
33								17.15	42	11	16	15				
34								17.45	30	11	16	15				
35								18.15	36	8	12	16				
36								18.45	30	8	12	16				
37								19.15	45	12	16	17				
38								19.45	30	12	16	17				
39								20.15	11							
40								20.45	30	6	2	3				

備考:

- 試料採取方法の記号
 ● シンウォールサンプラー
 ○ 貫入試験用サンプラー
 ● デニソン型サンプラー
 ⊕ ファイルサンプラー
 × その他

土質柱状図

報告用紙

栃木県立田沼高等学校社会福祉科
 調査名・調査地点 実習棟新築工事地質調査 標 高 - 0.295 m 調査年月日 9 年1月20日～ 年1月29日
 ボーリング孔: 底 2 孔内水位 GL - 3.40 m 調査担当者

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録				標準貫入試験				試料採取					
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m	打撃回数 貫入量 cm	10 cm ごとの打撃回数			N 値		試料番号	採取方法	
										10 cm	20 cm	30 cm	0	10			20
1	0.59	0.30	0.30	埋土	暗茶灰		上層 7cm アスファルト、砕石、軟湿りローム主体。粘土質ローム、軟凝団状呈す。	1.15	4	2	1						
	0.97	0.70	0.40	表土	茶褐			1.49	34	16	8						
2	2.09	1.80	1.10	ローム質粘土	茶褐		浮石、スクリップ混入。粘土片点在。凝灰質状も呈す。	2.15	2	1	1						
		2.60			暗黄灰			2.55	40	21	19						
3							浮石混入。上層色調変化著しい。計 2φ30~15% の角礫多量混入。部分的に酸化性強い。(黄色)。	3.15	1	1							
								3.46	31	31							
4								4.15	1	1							
								4.46	31	31							
5	5.09	4.80	3.00	シルト質粘土	暗緑灰		最大径φ180%前後。φ5~60%程度の角礫主体。部分的に砂分及び粘土分多量。5.00m 付近より酸化性強い。急水(大)。マトリックスは、砂分及び粘性土。	5.15	34	10	14	10					
								5.45	30								
6								6.15	26	6	4	16					
								6.45	30								
7								7.15	28	7	6	15					
								7.45	30								
8	8.19	7.90	3.10	砂礫	暗緑灰		最大径φ180%前後。φ5~100%程度の角礫主体。7.00~7.80m 漏水激しい。部分的に粘土分多量。緑色帯あり。マトリックスは、砂系及び粘性土。酸化性強い。	8.15	17	5	5	7					
								8.45	30								
9								9.15	44	15	17	12					
								9.45	30								
10								10.15	41	13	15	13					
								10.45	30								
11								11.15	50	23	16	11	7				
								11.42	27								
12								12.15	50	12	25	13	6				
								12.41	26								
13								13.15	50	15	25	10	1				
								13.36	21								
14	14.09	13.80	5.90	粘土混り砂礫	淡黄緑		φ2~80%程度の角礫点在。浮石多量混入。部分的に緑灰色呈す。計々砂礫状呈す。	14.15	31	9	13	9					
								14.45	30								
15								15.15	7	2	3	2					
								15.45	30								
16	15.99	15.70	1.90	粘土質シルト	暗灰			16.15	50	3	13	34					
								16.37	22			2					
17	16.59	16.30	0.60	シルト質細砂	暗灰		砂質シルト不規則に挟有。浮石、小角礫在。粒径均一。	17.15	50	30	20						
								17.34	19			9					
18								18.15	50	22	20	8	3				
								18.38	23								
19								19.15	50	17	21	12	7				
								19.42	27								
20	20.54	20.25	3.95	粘土混り砂礫	暗黄茶		最大径φ300%前後。φ30~70%程度の角礫主体。16.30m 付近硬質玉石介在。マトリックスは、砂系及び粘性土。計々砂分薄層状に挟有。	20.15	50	50							
								20.25	10								

備考:

試料採取方法の記号
 ● シンウォールサンプラー
 ○ 貫入試験用サンプラー
 ◎ デニソン型サンプラー
 ⊕ フォイルサンプラー
 × その他